

三鷹市立第 中学校 令和4年度【数学】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学力にあったクラスで学習ができるようにし、各生徒が成長できるようにする。 小学校での既習事項や単元のつながりを意識させるため、振り返りや復習を授業内で行う。 問題を読み取る力を育てるために、より丁寧な発問を心掛ける。 教科書の問題等、個人で解決する前に何を問われているかの確認を行い、じっくり考える場面を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数に苦手意識を持つ生徒が多く、それをそのまま数学に引きずってしまっている生徒も多い。 全体的に聞く力、読み取る力に欠ける生徒が多く、何を問われているのか、今何を学習しているのかがわからない場面も多々ある。 課題への取り組みに個人差が大きい。 家庭学習を全く行えていない生徒も多く、根気よく取り組む姿勢にかけている。 数学に興味関心を持っている生徒もいるため、その力も伸ばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でできるだけ数学的活動を取り入れ、生徒が興味をもって主体的に取り組める授業を目指す。 テスト前に質問教室を開く。 単元ごとに単元テストを行い理解度を確認する。 学びあい活動として、自分の意見を他人に伝える力、他人の考えを読み取る力を養う。 試験問題に読み取る力を問う問題を加え、重ねて指導する。 単元ごとにクラス分けテストを行い、自分に合った習熟度クラスで学習できるようにする。 基礎学力の定着および、授業に集中して取り組むことを目的とし、毎日の授業で3分間テストを行う。 ◎ほぼ毎回、教科書等の練習問題を宿題として課し、授業のあった日は、その日のうちに復習する習慣を付けさせるよう呼びかけを行う。宿題のない日は、問題集を進めるよう促し、定期的にチェックをする。問題は解くだけではなく答え合わせを大切に、1問1問確実に解けるようにするよう声掛けをする。 ◎問題の解説やポイントをタブレットにより配信する。また、欠席した生徒へのフォローとしても板書やノートを撮影し送る等の配慮を行う。 ◎授業では、モニターを活用することにより生徒の理解を深める工夫をする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の理解に応じた授業を展開することができた。生徒が自主的に学習に取り組めるように、授業で扱う題材や、評価の方法を今後も見直していく。 パターン化できる計算分野や、視覚的にとらえることができる図形分野などでは、学習の成果があげられた。 思考、判断、表現に関わることに対しての学習に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の挙手や発言が多く、数学を苦手としている生徒も授業に参加しようとする意欲が見られる。 習熟度別少人数授業を行っているが、理解度の高い生徒を含むクラスでも、発展問題を取り扱う機会が多くない。また一方で、そうでない生徒の基礎力の定着も課題である。 定期テストや単元テストでも、発展的な問題を正答できる生徒が少ない。 適切な家庭学習の時間を設けていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎授業ごとの目標を毎時間提示し、生徒に確認しやすくする。 ◎生徒の理解に応じて、前回の授業で扱った内容の復習問題を行う。 ◎授業の中で考えさせる場面を多く作る。 ◎単元ごとに、導入やまとめをする際に、身近な事象と数学とを関連付けて考えさせる。 ◎ペア学習・グループ学習をすることで、他者に意見を伝える力や他者の考えを読み取る力を養う。 ◎ノートに、板書した内容を写すだけでなく、自らの考えや学習事項のポイントなどを書くように指導する。 ◎単元ごとにテストを行い、自身の理解の度合いを図る機会を増やす。 ◎単元ごとに内容をまとめるレポート形式のテストを行い、自身の理解を深める機会を増やす。 ◎定期考査前に質問教室を開く。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学力にあったクラスで学習ができるようにし、各生徒が成長できるようにする。 単元のつながりを意識させるため、振り返りや復習を授業内で行う。 問題を読み取る力を育てるために、より丁寧な発問を心掛ける。 教科書の問題等、個人で解決する前に何を問われているかの確認を行い、じっくり考える場面を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の挙手や発言は少ないものの、グループワークや話し合いにはよく参加している。数学を苦手としている生徒も授業に参加しようとする意欲が見られる。毎回の宿題の提出率は学力に比例している。 ノートやワークでは板書や解説は丁寧に書いているが、自分の言葉でまとめ、ポイントを書き込むことまではできていない。 習熟度別少人数授業により、発展クラスでは応用問題や問題演習を多く取り入れ、基礎クラスは基本的な計算問題を丁寧に行うことができています。 基本的な計算問題はできるようになってきたが、思考力を要する問題や記述問題を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎テスト前に質問教室を開く。 ◎単元ごとに単元テストとクラス分けテストを行い、自分に合った習熟度クラスで学習できるようにする。 ◎その授業ごとの目標を毎回提示し、生徒に確認しやすくする。 ◎ほぼ毎回宿題プリントを配布し、家庭学習の習慣を付ける。 ◎各単元の学習に必要な既習事項について、その都度確認していく。 ◎授業の中で考えさせる場面を意識して作っていく。そのときに、発問の工夫をし、更に何を問うているのかを全体でしっかり確認していく。 ◎教科書を参考に、身近な事象と数学とを関連付け、生徒が興味をもって主体的に取り組める授業を目指す。さらに、考えた問題から新たな問題を自分で作るなど、自ら発展させる意欲を育てる。 ◎ペア学習・グループ学習をすることで、自分の意見を他人に伝える力、他人の考えを読み取る力を養う。 ◎資料の配布やグループ活動を、タブレットを活用して行う。